

1. 参考資料

- ・「日本国勢図会」第63版、矢野恒太記念会、2005年
- ・「数字でみる日本の100年」改訂第4版、国勢社、2000年

2. 一次エネルギー供給量 : (2003年度の姿) 資源エネルギー庁の統計

- ・石油 50.0%、石炭 20.1%、天然ガス 14.3%、原子力発電 9.4% で9割を占める。
これらのほとんどが輸入エネルギー (原子力を除いても輸入依存度は8割に達する)
- ・純国産のエネルギーは、水力発電 3.7%、自然エネルギー (太陽、風力、バイオマスなど) 0.2%、地熱エネルギー 0.1% など少ない。コスト高、立地の限定など
- ・他に、廃棄物エネルギー (廃棄物発電など) や廃棄エネルギー (廃熱利用熱供給など) が各々1%強。
- ・エネルギー消費の部門別内訳は、産業部門 48%、家庭部門 13%、業務部門 15%、運輸部門 24%。

3. 主要エネルギーの変遷 石油のウェイトは70年代後半から低下傾向

- ・戦後、一次エネルギーの主力は石炭から石油に変わり、70年代には石油のウェイトが7割を越えていた。しかし、石油への依存度は2度の石油危機を経て減少傾向を続けている。

	1955年	60年	65年	70年	75年	80年	85年	90年	95年	2000年
石油 (%)	18	38	60	72	73	66	56	58	52	51
石炭 (%)	47	41	27	20	16	17	19	17	17	18
水力 (%)	27	16	11	6	5	5	5	4	4	3
熱量(55年の倍数)	1.0	1.6	2.6	5.0	5.7	6.2	6.3	7.6	8.4	8.8

- ・石油に代わってウェイトを高めたのは天然ガス (1970年シェア1.2%) と原子力発電 (同0.3%)。石油危機など石油価格の大幅変動や供給不安の経験から、過度な石油依存の危険性が認識されたことによる。現在では、発電に占める原子力の割合が31.4% (電気事業用2002年)。
- ・国内の石炭産業は、戦後復興期に一時脚光を浴びた (「傾斜生産方式」などによる。戦後ピークの1961年には55百万トン生産) が、「エネルギーの流体革命」で衰退。主要炭鉱は2002年1月までに全て閉山。

4. 主な輸入先と埋蔵量

- ・わが国の原油の輸入は、中東産油国からが多い：原油の輸入依存度は99.7% (2003年)
2004年の原油輸入 (2.45億kl) の国別内訳 (日本関税協会調べ) は、サウジアラビア27%、アラブ首長国連邦25%、イラン15%、カタール9%、クウェート8%、インドネシア3%等 …… 中東の合計 89%
世界の原油輸入に占める日本の割合は2002年に10.3% (米国<25%>に次いで2位)、2002年の世界の原油消費に占める割合は6.0% (米国<22%>、中国<7%>に次いで3位)：いずれもIEA調べ
- ・原油の埋蔵量は世界で2,032億kl確認 (2004年)。うち、サウジアラビア20%、カタール14% (含むオイルサンド)、イラン10%、イラク9%、アラブ首長国連邦8%、クウェート8%、ベネズエラ6%、ロシア5%等 …… 中東の合計 57%
可採年数 (確認埋蔵量 / 生産量) は2004年、世界全体で49.3年：オイル・ガス・ジャーナル誌調べ
- ・わが国の石炭の輸入は、豪州など環太平洋諸国からが多い (2003暦年、通商白書ほか)
オーストラリア57%、中国18%、インドネシア13%、カタール5%、ロシア5%等：石油の輸入国とは異なる
- ・石炭の埋蔵量は世界で5,191億トンを確認 (1999年)。うち、米国22%、インド16%、中国12%、南アフリカ10%、ロシア9%、オーストラリア8%、カザフスタン6%、オランダ4%等：国連資料等による、石油と異なる分布
可採年数は2001年、世界全体で139.3年：国連資料等による
- ・わが国の液化天然ガスの輸入は、東南アジア・豪州など環太平洋諸国からが多い (2003暦年、経産省)
LNG輸入の国別内訳は、インドネシア28%、マレーシア20%、オーストラリア14%、カタール12%、ブルネイ12%等
- ・天然ガスの埋蔵量は世界で171兆m³確認 (2004年)。うち、ロシア28%、イラン16%、カタール15%、サウジアラビア4%、アラブ首長国連邦4%、米国3%、ナイジェリア3%等：オイル・ガス・ジャーナル誌調べ …… 中東の合計 42%
- ・ウランの埋蔵量は世界で317万トン確認 (2003年初)。うち、オーストラリア23%、カザフスタン17%、米国11%、カタール11%など。なお、可採年数は2003年初、87.9年：IAEA資料等による 以上